

3. 神のご計画

ペテロの手紙#3

<https://ichthys.com/Pet3.htm>

ロバート・D・ルギンビル博士著

復習と概要： ペテロが手紙を書いた相手は、小アジアに住むクリスチャンたちでした。彼らはすでにしばらくの間キリストを信じていましたが、次第に神の計画と目的から心をそらされつつありました。個人的な苦しみや生活上のさまざまな問題が、彼らの信仰を揺さぶり、「神の恵みだけで本当に自分たちの問題に対処できるのか」と疑わせていたのです。ペテロ自身もまた、生涯にわたって大きな苦しみに直面しましたが、そのことが自らの霊的成長や奉仕の妨げになるのを避けることができました。それは、彼が自分の無力さを認めていたからです。彼の名「ペトロス」は本来「(神の計画の中の)小石にすぎない」という意味を持っています。自分に頼るのではなく、神の力に身をゆだねることを選んだからこそ、ペテロは信仰を保ち続けることができたのです。(第一ペテロ 5章7節)。これこそ、神の祝福をもたらす真の謙遜の態度です(第一ペテロ 5章5節)。小アジアで苦しんでいた信徒たちにあてた二つの手紙の中で、ペテロは冒頭から大切な教えを伝えようとしています：世の中では成功を富や権力、名声で測り、病気や貧困、孤独、迫害などを「恥ずかしいこと」と見なすかもしれません。しかし神の基準はまったく異なります。神を信頼するクリスチャンこそが、本当の意味で成功者なのです。

第一ペテロ 1:1-2 の改訂訳：

イエス・キリストの使徒であるペテロから、父なる神の予知により、聖霊の聖別を受け、イエス・キリストの血の注ぎかけのもとに従順になるために、選ばれた人々、すなわちポントス、ガラテヤ、カッパドキア、アジア、ビテニヤの各地に散らされ追放された人たちへ。あなたがたに恵みと平和が増し加わるように！

解説：「散らされ、世からはのけ者にされた人々…しかし神に選ばれた者たちへ」
すでに見たように、初期のクリスチャンたちはその信仰ゆえに、村八分にされたり、公然と迫害を受けたりしていました。ペテロは彼らの苦しみを軽んじることなく、正面から認めています。彼は彼らを「パレピデモイ」(parepidemoi)と呼びました。これはギリシヤ語で「よそ者」や「一時的に滞在する者」「流浪者」を意味する言葉です(ヘブル 11章13-16節参照)。さらにペテロは、彼らを散らされた民にたとえ、ギリシヤ語の「ディアスポラ」(diaspora)という言葉を用いています。これは「離散」を意味し、しばしばユダヤ人が諸国に散らされたことを指す言葉としても使われます。つまりペテロはこう語っている

のです。「そう、私たちクリスチャンはこの地上においてはよそ者、散らされた者として生きている。世の目から見れば、それは確かに哀れむべき立場かもしれない。しかし、神の目から見れば、あなたがたは特別な存在、世から選び出された聖なる者なのだ」と。ここで使われているギリシヤ語「エクレクトス」(eklektos)は「選ばれた者」という意味です。つまり、クリスチャンは世の中から「取り分けられた」存在であり、神によって特別に選ばれ、永遠に神の所有とされたのです。私たちはまだこの世に生きていますが、もはや本当の意味では「この世に属していない」のです。だからこそ、主が警告されたように、世からの敵意を受けるのは当然のことです(ヨハネ 15 章 18-19 節)。とはいえ、ペテロの読者たちと同じように、私たちもこう問いかけたくなるでしょう。「もし神が私たちを選んでくださったのなら、なぜなお地上に残され、これほどの苦しみを受け続けなければならないのか?」——この問いに答えるためには、神のご計画と、聖書が語る「苦しみの意味」について考えていく必要があります。

神のご計画：

1. **神の全体的な計画：** 時間が始まる前、世界が創造されるよりも前から、神は三位一体——父なる神、子なる神(イエス・キリスト)、そして聖霊——として存在しておられました(創世記 1 章 1 節; ヨハネ 8 章 58 節)。聖書のさまざまな箇所からわかるのは、この創造以前の時点で、神がご自身の「計画」を立てられたということです。この計画は、人類の歴史だけでなく、天使たちの歴史も含む、すべての時代を見通したものです(詩篇 33 篇; イザヤ 25 章 1 節, 41 章 22-26 節, 43 章 9 節, 44 章 7-8 節, 44 章 25-26 節, 48 章 3 節; エペソ 1 章 11 節, 3 章 11 節)。神のご計画は完全であり、全く欠けるところがありません。そこには天地創造から終末に至るまで、時間の流れの中で起こる大小あらゆる出来事が含まれています。なぜそのようなことが可能なのでしょうか。それは、神が全知(すべてを知る方)、全能(すべてを行う力を持つ方)、永遠(時間に縛られない方)、無限(限界のない方)であるからです。神は時と空間をはるかに超えておられるので、私たちには想像もできない「宇宙のすべての活動を、時間の始まりから終わりまで完璧に設計し支配する」ということも、神にとっては難しいことではないのです。(だからこそ、私たちが疑いや不安に陥りそうになるときには、この神の力を思い出す必要があります。——神にはそれができるのです。どんなことであっても。)

- a. **神の目的について：** 神は完全なお方です。そこには欠けもなく、増し加える必要もありません。神は私たちから何かを得る必要もないのです(使徒行伝 17 章 25 節)。イザヤ書によれば、神は「わが栄光のために」私たちを創造されたと語られています(イザヤ 43 章 7 節)。つまり、神の完全さ、義、善をあらわすために、私たちは造られたのです。時と空間、そしてそれを支配する「神の計画」はすべて、被造物

である私たちのために備えられました(イザヤ 45 章 18 節)。その目的は、私たちが神を知り、神を愛し、その栄光を映し出す存在となることにあります。(詳細については『[聖書の基本 1:神学—聖書に基づく神の学び](#)』を参照してください)

- b. **神のご計画について:** しかし、神の被造物すべてが(人間であれ御使いであれ)神に仕えることを選んだわけではありません。神には、人間を植物が太陽に向かうように自然に従わせる世界を造ることもできました。しかし神は、自らの自由意志によって仕えることを選ぶ者を望まれたのです。神はその無限の知恵により、まだ存在する前からすべての道徳的被造物の自由意志の行動を織り込んだ計画を立てられました(エレミヤ 1 章 5 節)。「光あれ」と神が言われる前に(創世記 1 章 3 節)、歴史の流れはすでに神の計画に従って定められていたのです。それは被造物の自由意志を少しも損なうことなく、神が「私たちが何をするかを前もって知り」(実際には全知であるため)、その行為を計画の中に組み込むだけの力(全能)を持っておられたからです。ですから、神が歴史に「介入できる」だけだと考えるべきではありません。むしろ、歴史が始まる以前に、神は起こるすべての出来事を確定し、定められていたのだと理解すべきなのです。(詳しくは『[サタンの反乱](#)』シリーズ第5部『[人類史における神の計画](#)』を参照してください。)
- c. **サタンの反逆について:** 歴史には、好ましくない事柄が数多く含まれています。その中には「悪」もあります。悪は神から出たものではなく、神の被造物がその自由意志によって神に逆らったときに生じたものです。サタンは仲間の天使たちとともに神に反逆し(イザヤ 14 章 12 節〜; エゼキエル 28 章 12-19 節)、その後、人間を誘惑して罪を犯させました(創世記 3 章)。その結果、最初の人類は自らの自由意志によって神から離れてしまったのです。しかし神の計画は、最初からこの事態を織り込んでおられました。そして、人類がもう一度、神に仕え従うことができるように、御子イエス・キリストにおける救いの業を用意しておられたのです。父なる神が、御子と聖霊と共に歴史を定められたとき、それは気まぐれな決定ではありませんでした。それは私たちの理解を超える大きな代償を伴う決定だったのです。なぜなら神の計画には、御子の受肉、父による御子の犠牲、そして御子ご自身が激しい苦しみの生涯を受け入れ、最終的に十字架で全人類のために死ぬことが含まれていたからです(ルカ 24 章 25-27 節; 使徒行伝 2 章 23 節, 3 章 18 節, 7 章 52 節, 10 章 37 節, 17 章 3 節, 26 章 23 節; 第一ペテロ 1 章 11 節, 1 章 20 節)。私たちがイエスを信じる時、それはこの偉大な神の憐れみの御業を認めることであり、同時に神の栄光を現すことなのです。これこそが、私たちが創造された目的にほかなりません。(詳しくは『[サタンの反乱](#)』全 5 部を参照してください。)

2. **信者に対する神の計画の三つの段階:** ローマ人への手紙 8 章で、パウロは神の全体的な御計画と個々の信者に対する具体的な御計画とを結びつける繋がりを図式的に描写しています。パウロは、私たちが「予知され」(永遠の過去において自由意志

が考慮され)、「あらかじめ定められ」(神の計画全体に書き込まれ)、「召され」(キリストを信じる機会が与えられ)、「義とされ」(救われ、神の家族に入れられ)、「栄光を与えられ」(将来の復活が予見された)、永遠の過去から永遠の未来へと私たちを案内しています。このようにパウロは、私たちの人生が神のご計画の中でどのように位置づけられるのか、特にキリストを信じる私たち個人にとっての神のご計画には三つの段階があると考えるのが最も適切であることを説明しています：

- a. **救いに与る信者：** 神は、イエスを信じるという単純な行為によって、すべての人が救われると言っておられます(ヨハネ 1 章 12 節, ヨハネ 3 章 16 節; エペソ 2 章 4-9 節; 第二テモテ 1 章 9 節)。預言され、召された私たちは、キリストを信じた時点で**義とされます**。
- b. **時を生きる信仰者：** 神は、救われた私たちが耐え忍ぶことを意図しておられます(第一ペテロ 2 章 2 節; ピリピ 2 章 12 節)。私たちは皆、始めたときと同じように、神のご計画の中に留まって歩み続けるべきです。私たちは神の真理(キリストを信じる信仰によって救われるという福音)を聞き、それを信じます。同じように、私たちは神の真理の全領域を吸収し、それを信じることによって成長します。信じることによって真理を保持するとき、真理は私たちを変え(ローマ 12 章 1-2 節)、私たちを霊的に成長させます。このような成長は内側から来るものであることを覚えておくことが大切です。人為的な制度や規則によって行動を束縛することによって成長するものではありません。とはいえ、真の霊的成長は行動に変化をもたらしますが、それは良い方向への変化です。神が望まれる重要な変化の一つは、すべてのクリスチャンが御計画の中で自分の役割を果たすようになることです(第一コリント 12 章 12-31 節; エペソ 2 章 10 節)。すべてのクリスチャンは、救われた時に何らかの霊的賜物を受けます(第一コリント 12 章 11 節)。しかし、真の実り豊かさは霊的成長の結果であり、決してその手段によるものではありません。**キリストを信じた結果、神によって義と認められた私たちは、地上の生涯を通して義にかなった行いをすべきなのです。**
- c. **永遠における信仰者：** この世が終わると、もはや涙はありません。古いものは過ぎ去ります(黙示録 21 章 4 節)。私たちは永遠に主と共にいるようになるでしょう(ローマ 5 章 9-10 節; 第一テサロニケ 4 章 13-18 節)、そして永遠の至福を待ち望むことができます(黙示録 21 章 9 節~22 章 5 節)。そして究極的には、地上の肉体が復活し、主が約束された将来の栄光の状態に変えられるのです(第一コリント 15 章 50-58 節)。この世でキリストに忠実であった私たち

は、主の再臨の時に復活によって**栄光を受ける**のです。

3. **神の御計画とあなた**：神はあなたのために計画を持っておられ、あなただけの目的を持っておられます。神は、あなたが存在するはるか昔、永遠の昔からあなたを知っておられました。あなたに対するその愛は大きくて、神は御自分のひとり子さえ十字架につけて死なす覚悟をされました。あなたが神に立ち返る以前に、神はあなたのためにこのことをしてくださったのです。今、信じているあなたのためには、なおさら神はあなたが必要としているすべてのものを与えてくださらないことがあるでしょうか（ローマ 5章 6-11 節）。神は、あなたが直面している一目瞭然の苦勞も、あなたのひそかな心の中の痛みと苦しみも、どちらの問題も知っておられます。神はこのすべての必要に十分に応えることのできる方です。永遠には問題というものはありません。悪魔の世界の真ただ中のこの時間の中においてこそ、神はこれらの事柄において、あなたに対するご自身の誠実さを実証される機会を持っておられるのです。あなたは、ただ時間の中にあって、主があなたのことを気にかけてくださり、あなたのすべての必要に対して何らかの答えを与えてくださるといふ固い信念の下で主の愛に応え、信仰をもって、あなたに立ちはだかる逆境に立ち向かうことができる機会を持っているのです。永遠において、主が見ておられるように、私たちもすべてをはっきりと見ることができます（第一コリント 13章 12 節）が、この世にいる限り、私たちの視野は限られています。地上の目に映るものによってではなく、この地上では唯一の信頼できる真理の源である神の御言葉から真実であると知り、信じているものに頼って、信仰によって前進しなければならないのです（第二コリント 5章 7 節； へブル 11章 1 節）。

要約： この世の「目」からは、第一ペテロの手紙の対象者は失敗者と見なされ、彼ら自身、そうした見解を受け入れてしまい、「神よ、いったいどうしてなのですか？」と疑問を持つようになりました。ペテロは彼らに、この世の目から見れば自分たちが確かに無価値であっても、本当に重要な唯一のお方、すなわちこの世の創造主であり救い主であるお方にとっては、彼らは最も重要な存在であると答えているのです。銀河の進路や砂浜の砂粒の配置を計画できる神は、あなたの問題も確かに解決できるはずで、神は、あなたの世話をする能力を持っておられ、またあなたを世話したいと望んでおられ、実際、あなたの生涯を通してあなたを忠実に牧者として世話してこられました。私たちはこれらのことを思い起こして励ましを受け、靈的に成長し続け、忍耐して神のご計画にとどまり続けなければなりません。ペテロの時代の苦難に満ちた信徒たちが問いかけていた質問の最初の部分に答えるなら、**私たちがこの世にいるのは、自分の人生に対する神のご計画を生きるためなのです**。私たちが神に忠実であるとき、それは消えることのない永遠の祝福と報いにつながります（第二コリント 4章 17 節）。一方、この世のものはすべて儂いものです（第一コリント 3章 10-15 節）。次回の学びでは、苦しみが靈的成長において果たす重要な役割について取り上げます。

